

平成25年度（第2事業年度）

事業報告書

平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで

目次

要 旨	1
I 書道振興事業（公益目的事業1）	3
II 書道育成事業（公益目的事業2）	7
III 物品の販売事業（収益事業1）	20
IV 管理部門	21

## 平成 25 年度事業報告書

### 要 旨

公益財団法人へ移行し 2 年目の事業年度が終了した。日本漢字能力検定協会による今年の漢字、「輪」が象徴するように、2020 年夏季オリンピックの東京招致成功、プロ野球の東北楽天ゴールデンイーグルスの日本選手権シリーズの初制覇により東北地方に歓喜の輪が作られた。また、台風第 26 号による伊豆大島災害や台風第 30 号によるレイテ島（フィリピン）災害に対する日本各地並びに世界各国からの支援の輪が広がった。

しかし、依然として日本の社会・経済は、被災地の回復をはじめ、雇用不安、外交問題など、様々な課題をかかえているが、文化・芸術こそが日本社会や経済の下支えとなり得ると考える。このほど超党派の国会議員による「書道国会議員連盟」が設立された。

①毛筆文化は日本文化の象徴的存在、②昨今は書写能力や技術が希薄化しつつあることを懸念、③小・中学校や高校における書写書道教育の充実や書道文化の振興、普及発展に一層の貢献を目指すことなどを標榜している。書道の重要性が中央および地方行政に反映されることを期待する。

平成 25 年度は次の 2 つの基本方針により事業を実施した。その活動の概況を以下報告する。

### 基本方針 1・・・書道文化の振興発展

大池晴嵐の書業を顕彰し、その作品の制作の場となった敷地庭園を公開するとともに、書道関係資料の収集保存、調査研究、展示公開を行なうことにより、書道文化の振興発展に努める。

◇大池晴嵐（1899～1977）は、書家として、高等学校書道教員として、書道文化の振興発展をはかることを提唱していた。昭和 43 年、後継の嗣子青山楓谷を亡くしてより、書道の後進の育成と自らの作品の散逸を憂い、昭和 46 年、財団法人の認可を得て「晴嵐館」を設立。作品を保管展示できる社会教育施設として開館した。昭和 52 年、晴嵐没後は、晴嵐の作品を中心に、地域書家作品、文房四宝等を鋭意収集し展示公開することで、書道文化の振興発展に努めてきた。

◇～大池晴嵐の芸術観と晴嵐館設立の経緯～大池晴嵐の残した書作品は、書の古典に裏付けられた造形と独特かつ多様な線質が特徴であり、かつ庭園の中に見られる自然と人工の調和を作品の内面に表現している。そのため、晴嵐の作品等を鑑賞すると同時に、日々の創作のもととなった芸術の小宇宙である庭園を散策することによって、何よりも晴嵐の芸術観をより深く感じることができる。この晴嵐の芸術観を味わうことこそ晴嵐館が書道作品を展示するゆえんである。私たちの暮らしの中で、美しいものから受ける感動は生活に潤いを与える。書道作品や庭園の公開を通じて、多くの人が書道の素晴らしさを知り、地域の文化的向上を図るために、昭和 46 年、財団法人晴嵐館は設立された。

### 基本方針 2・・・書道教育者の育成

書道に関する講習会、資格認定、コンクール等を行い、書道に携わる者を育成し、もって書道芸術および書写道教育の発展を図る。

◇大池晴嵐の教育観は、「民」による書道に対する高い知識と技能をもって、「公」の学

校書写書道教育の補完をはかることであつた。昭和46年に財団法人晴嵐館設立後はこの教育観により書道教育者の育成事業を行ってきたが、平成24年4月に公益財団法人晴嵐館として移行認定されたからには、これからも「民」における伝達により脈々と継承しなければならない。その意志を継ぎ、次代を担う人格・識見の高い指導者を育成することが、書写書道教育の発展に寄与することになると信じる。

## I 書道振興事業（公益目的事業1）

大池晴嵐の書道作品をはじめとする書画およびその関連資料等を収集、保存、展示公開するとともに、大池晴嵐の作品構想のインスピレーションの場である庭園を整備して一般に公開する事業である。

収蔵する作品資料は、大池晴嵐の作品のほか、大池晴嵐の師であった豊道春海、伊賀五峰をはじめ、村瀬太乙、青山杉雨、神谷葵水、高木大宇など地域の書道家、中国作家の書画作品等。関連資料等としては、遺品、資料、写真のほか、筆、墨、硯、紙等の書道用具、拓本、古美術品、複製品等がある。

### 1. 収集、保存および調査研究

#### (1) 作品等の展示資料収集

大池晴嵐の作品資料はもちろん、書道に関する文献資料の収集もおこなった。今年度の収集品は次のとおり。

- 大池晴嵐作品3点「白楽天詩 偶作」（屏風 昭和15年作）、「心閒意適」（扁額）、「般若心経」（軸 昭和47年作）（個人からの寄贈）
- 大池晴嵐作品2点「寒巖一樹松」「試竹筆」（軸 個人からの寄贈）
- 大池晴嵐作品7点「天地同壽」「穆以温」「虚空低頭」「思舊侶」「快作樂」「八幡大菩薩」「合作」（軸 個人からの寄贈）

#### (2) 作品等の保存・保管

収蔵作品などは、晴嵐館本館1階および2階の収蔵庫に保存。高額の図書資料は、錬心講堂の書庫に保管。湿度や空調等に配慮し、湿度の高い日には除湿機を運転し保全をはかった。

#### (3) 作品の表装・補修

未表装、マクリ等の作品の表装、その他作品の補修を行なった。

- 大池晴嵐書 マクリ4点（表装）
- 村瀬太乙書 襖4枚（補修）

#### (4) 調査研究活動

##### ① 収集作品および資料に関する基礎的研究

収集した作品資料等の基礎的調査研究を行っている。本年度は平成23年に寄贈を受けた中国拓本の研究を継続しておこなった。このうち4点を7月に名古屋市民ギャラリー栄で開催の晴嵐館師範選抜書展に、3点を12月に名古屋市博物館ギャラリーで開催の中道書法展に特別展示した。

##### ② 大池晴嵐の作品所蔵調査

大池晴嵐の作品は、公共施設あるいは個人等により各所に所蔵されている。作品の所蔵データ等を把握するために、調査を継続している。調査は機関誌ならびに展覧会会場で配布する目録等で広く一般に呼びかけた。

##### ③ 博物館の展示運営等に関する調査研究

昭和59年から愛知県博物館協会に加盟している。博物館協会では年間を通じて様々な研修会が行われており、関係の研修会等に参加することで、収集保存、展示公開、教育普及などの博物館活動の専門的技術的技能の開発と博物館相互の交流をはかり、展示公開の質を向上させることにつとめた。以下の研修会、レセプション等に学芸員の資格

ある者、ならびに学芸員補を派遣した。

- 愛知県博物館協会 調査・研究部門研修会

日 時 平成26年2月25日（火）

場 所 徳川美術館

テーマ 「寄託・寄贈品の受入について」

派 遣 2名

- ④ 博物館視察

各地の美術館博物館への視察、有名美術館博物館内覧会・レセプションへの参加をすることにより、美術館展示の運営について質の向上をはかった。

- 「親子で楽しむアートの世界展」開会式・内覧会

日 時 平成26年2月14日（金）

場 所 名古屋市美術館

派 遣 1名

- 「印象派を超えて一点描の画家たち」開会式・内覧会

日 時 平成26年2月24日（月）

場 所 愛知県美術館

派 遣 1名

## 2. 展示、公開、貸出および刊行

公益財団法人晴嵐館が所有する「晴嵐館本館」（江南市大海道町青木22番地）は、鉄筋コンクリート造り2階建ての美術館施設となっている（建築面積99.99平米、建物1階86.22平米、建物2階83.70平米のうち、展示室（1階50平米・2階54平米）、収蔵庫（1階13.5平米・2階9.3平米）、研究作業室（1階6平米））。

展示公開の期間は年間300日以上（毎週木曜日並びに展示替え期間中を除く）。今年度晴嵐館展示室を訪れた来館者は、のべ入場者数約650名であった（うち有料183名庭園の観覧のみの者は除く）。企画展・常設展の案内や収蔵品についての広報は、ホームページおよび機関紙『書芸中道』（毎月約680部、28～32ページ）、館報等により周知している。

庭園の公開は、大池晴嵐が作庭した庭園を一般に公開するものである。晴嵐館本館に隣接する庭は、近くを清流が流れ起伏ある山林を切り開き、閑静なこの地を終の棲家とした晴嵐が、書道作品の発想・テーマ・レイアウトなどを喚起する重要な空間として位置づけて作庭した。木立の生え方、庭石の配置は、書道の作品の制作に反映され、書のリズム、運筆の呼吸はもとより、字配り、字形に大いなるヒントを与えてくれる。現在は枯山水となっているが、晴嵐の生前には、水を満面とたたえた深い池と浅い池、それをつなぐ水路や水の湧き出す泉からの水流が池に流れ込む構造となっていた。水位が下がり周囲の環境も変わり今は水を湛えることはできないが、当時の面影を残す造りを保全している。この庭園は、一般市民の憩いの場であり、作品制作のための思索を体感する場でもある。

これらの事業に関連して、作品の貸し出し、収蔵資料目録の刊行、出版等を行う。

### (1) 作品等展示公開

晴嵐館展示室等において常設展示、企画展示、特別展示を行い、書道の普及振興に努める。観覧料は1人300円（保護者または指導者同伴の小中学生は入場無料。20名以上の団体は2割引き。庭園の観覧のみの場合は無料）。

#### ① 常設展示

- 「晴嵐の書業」

晴嵐館本館1階の展示室において、大池晴嵐書業78年の変遷を、写真、遺品を通して紹介。少年時代、東京時代の数少ない資料と、日展時代、晩年の三猿庵時代の書業を常設展示した。愛用の書道用具、晴嵐の筆耕による陶器皿、晴嵐の題字筆耕による墨を入れ替え展示した。

## ② 企画展示

### ● 「晴嵐の書」～漢字かな交じり作品～

25年度前半期の展示（3月30日～9月23日）は、大池晴嵐先生（昭和52年没）作品の中から、漢字かな交じりの書作品を展示した。日本語文、自詠の和歌、俳句などをしたためた日常の筆記作品。このほか、色紙、えんぴつ書きの原稿等。作品は6月に1回架け替え。有料入場者数は77名であった。展示作品は次のとおり。

#### 《2階展示室》

1. 自詠歌一首（軸） 昭和42年（69歳）
2. 丑（軸） 昭和48年（75歳）
3. 自詠句 世の悪を（軸） 昭和41年（68歳）○『中道』昭和41年2月号
4. 自詠句 猿まわし（軸） 昭和43年（70歳）◎『中道』昭和43年1月号
5. 労働（屏風） 昭和43年（70歳）
6. 自詠句 山鳩の（軸）
7. 龍（軸） 昭和51年（78歳）『書藝中道』昭和51年1月号
8. 自詠句 つわものの（軸）
9. 自詠句 虫の聲（軸）
10. 處和（額）
11. 自詠句 秋萩の（軸）
12. 自詠句 池の鯉（軸） ○
13. 自詠歌 古稀書懷（色紙） 昭和43年（70歳）◎『中道』昭和43年5月号
14. 自詠句 にくき哉（軸）
15. 書道への悲願（未表装） 昭和46年（73歳）
16. 訪中日誌（冊）
17. 婦人手紙帖（帖）

○＝6月26日まで ◎＝6月28日から

### ● 「晴嵐の書」～日本漢詩の書作品～

25年度後半期の展示（9月28日～26年3月23日）は、大池晴嵐先生（昭和52年没）作品の中から、江戸時代の文人・詩人、伊藤東涯、尾藤二洲、頼山陽、梁川星巖、廣瀬旭荘、森春濤、松本奎堂らの漢詩を題材とした作品を展示した。作品は12月に1回架け替え。有料入場者数は106名であった。展示作品は次のとおり。

#### 《2階展示室》

1. 梁川星巖詩（軸） 昭和46年（73歳）『書藝中道』昭和46年1月号
2. 松本奎堂詩 餞春（軸） 昭和48年（75歳）『書藝中道』昭和48年4月号
3. 伊藤東涯詩 早春漫書（軸） 昭和42年（69歳）『中道』昭和42年1月号
4. 尾藤二洲詩（軸）
5. 森春濤詩（軸）
6. 廣瀬旭荘詩 七言絶句（額） 昭和34年（61歳）第4回 現代書道二十人展出品
7. 頼山陽詩 春日田園（軸）
8. 村瀬太乙詩 江上（額） 昭和34年（61歳）◎還暦作品

9. 村瀬太乙詩 上有知途上（軸）昭和 34 年（61 歳） ○還暦作品  
 10. 村瀬太乙詩 詠史四首（襖）  
 11. 良寛詩 過去（額） ◎  
 12. 良寛詩 毬子（軸） 昭和 52 年（79 歳） ○『書藝中道』昭和 52 年 4 月号  
 13. 伊藤仁斎詩（折帖） ○  
 14. 山内容堂詩（折帖） ○  
 15. 廣瀬淡窓詩（折帖） ○  
 16. 廣瀬旭莊詩（折帖）  
 17. 西郷南洲詩（折帖） ◎  
 18. 菅茶山詩（折帖） ◎  
 19. 書道への悲願（未表装） 昭和 46 年（73 歳）  
 ○=12 月 29 日まで ◎=1 月 4 日から

## （2）庭園の公開

晴嵐館の庭園には、マツ、サクラ、カエデなどの樹木のほか、庭石、灯籠などが配置され、池には鯉が泳ぐ。晴嵐の筆による筆塚碑、道標、門表等を見ることが出来る。庭園は常時公開し、自由に散策することができる。

春はサンシュ、梅、モクレン、桜、モッコウバラ、ハナミズキ、芝桜、矢車草、デイジー、牡丹、春蘭、ツツジ、オガタマ、サツキ、ミヤコワスレ、タイサンボクなど多くの花が楽しめる。夏には、アマドコロ、アジサイ、百日紅が見られ、秋は、ドングリ、椿、柿の実が生り、紅葉、アメリカ楓が色とりどりに、冬は山茶花、水仙。

ツツジ科のエリカが身の丈ほどに大きく育ち、4 月中～5 月にかけてフェンスにびっしりとピンクに色づく。周囲は、水田で田植えの風景、オタマジャクシが泳ぎ、春はウグイス、初夏にはカエル、シラサギ、夏はセミ、11 月には渡り鳥や野鳥の声もさかんに聞こえる。庭園の樹木配置図を作成し、四季折々の風景を写真撮影（パネル展示）し来館者に公開した。

庭園は常時無料開放し、市民の憩いの場として提供している。

## （3）作品等の貸出

大池晴嵐ほかの作品・資料を広く一般に公開するため、作品等の貸し出しおこなう。

- 東海書道藝術院創立 60 周年記念「歴代会長副会長遺墨展」に大池晴嵐作品 2 点（「般若心経」「紫芝瑤艸」）を貸し出した（平成 25 年 4 月 9 日（火）～14 日（日） 青柳堂栄サンシティーギャラリー）

## （4）収蔵資料、展示資料目録、書道文化関連資料等の刊行

大池晴嵐の書業を端に発し、晴嵐の作品・業績、書道の芸術文化全般にわたる有益な資料を一般に供するため、出版物を刊行する。刊行物は実費頒布。今年度も資料目録の整理作業を進めていたが、刊行には至らなかった。刊行物は次の通り。

- 『大池晴嵐遺墨集』
- 『大池晴嵐巻頭言集』
- 『大池晴嵐展図録』
- 晴嵐館ブックレット 1 『教育こぼればなし～教える心 育てる心～』

## Ⅱ 書道育成事業（公益目的事業2）

書道芸術は、常に新しい書風の確立を目指さなければその進展発展はない。現代の書道界の最新の動向をふまえ、社会のニーズに合った作風をめざすために、日夜研究研鑽をするものであり、そのために、温故知新、常に古典書法をふまえた新しい書道を探求するものである。本事業は書道に関心を持つ学生（幼年～高校生）から一般の方々に対し、書道芸術ならびに書写書道教育に関する様々なセミナー事業を行うことにより、書に携わる者の育成を図り、もって書道文化および書道芸術の振興に寄与することを目的とする。

これらの事業は、いずれも書道に携わる環境を整え、書道に携わる者を支援し、育成することを通じて、書道芸術および書写道教育の発展を図るものである。

財源は、原則参加費。不足する場合は、他の事業収入のほか、記念事業積立資産、基本財産利息収入、特定資産利息収入、寄付金収入、会費収入を事業の原資に充当する。

### 1. 書道教育者の育成、書道の資格を認定する事業

書道の教育者を育成するため、教室・講習会、書道の資格認定をする競書、検定試験など、入門者から教育者へと進んでいくことのできるよう、次の様々なプログラムを用意している。書写書道を愛好する学生（幼年～高校生）・一般の人々を対象としている。

#### (1) セミナー事業

##### ① 毛筆教室

日 時 毎月3回 土曜日 午前10時半～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

指 導 日展会友 大池青岑氏

書道を愛好する初心者から上級者までを対象に、漢字、かなの書法を幅広く研究し、書道教育者の育成を図った。指導は書道界で活躍する専門の作家による。教材は、本法人発行の「書芸中道」のほか、本法人所蔵の図書資料を使用。毎月の課題を中心とし、展覧会出品作品、検定試験の受験作品等の批正添削がおこなわれた。

今年度開講日は、4月6・14・27日、5月4・18・26日、6月1・15・29日、7月6・20日、8月3・10・31日、9月7・21・28日、10月5・12・26日、11月2・16・30日、12月7・21・28日、1月5・11・25日、2月1・15・22日、3月1・16・22日（土曜開講できなかったときは日曜日に補講、7月は2回のみ）の計35回。受講料は月3回4000円（展示室入館料300円を含む）。作品発表の場として3月に作品展を開催した。

##### ② 篆刻教室

日 時 毎月1回第3月曜日午前10時～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

指 導 日展委嘱 岡野楠亭氏

篆刻とは書画作品に押捺する印章を刻すことである。印章の歴史は古く、わが国においても奈良の正倉院文書にも押捺されており、日本文化の一つと言える。中国明時代から芸術的性格を帯び、篆刻は書道芸術の一分野として重要な位置を占めている。

書道を愛好し篆刻に興味関心を持つ者を対象に、書画作品に押捺する印章の制作法を研究した。主に印稿作りと刻法を学習。各自思い思いのことばを方寸の石印材に刻し、印章を仕上げた。篆刻用具一式が必要。指導は書道界で活躍する専門の篆刻家による。

篆刻教室は昭和59年開講以来29年間にわたり、篆刻の専門家、山本碩斎氏（朱泥印社主宰）の指導によりおこなってきた。平成23年9月24日からは新しく岡野楠亭



氏（日展委嘱）を講師とした。今年度は次の日程で総計11回開催した。4月15日、5月20日、6月17日、7月22日、9月30日、10月21日、11月18日、12月16日、1月27日、2月17日、3月17日。受講料は月1回3000円（展示室入館料300円を含む）。作品発表の場として、3月に作品展を開催した。

### ③ 書道教育講習会

書道教育講習会は、年1～2回、晴嵐館錬心講堂において、書道教育に関する実技を中心とした講習会である。指導はその道の専門家による。講習内容はジャンルに偏ることなく毎年テーマを決め、漢字・かな・漢字かなまじり書など、幅広い分野に及ぶ。今年度の開催は下記のとおり。有名かな書家を講師として1回開催した。

#### ● 小作品制作シリーズ 半紙かな作品を書く

日 時 平成25年9月23日（月・祝）午後1時～3時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

講 師 日展会友 山本雅月氏

参加者 24名

内 容 半紙1枚に和歌一首あるいは俳句一句を書き、連綿の法、散らしの構成法などを学んだ。

### ④ 毛筆・硬筆錬成会

錬成会は、書道の指導者として師範位取得を目指す人々を対象に、人材育成、資質向上を目的とする高度な技術的研修会。検定試験受験上の心得、スキルアップをはかるため、受験課題の説明並びに実技書道教育に関する実技指導と助言をするものである。受講者には受講者証を授与。指導は、師範位の認定ならびに手本を揮毫する硬筆・毛筆の専門書家による。今年度から秋春2回の開催とした。

#### ● 秋季毛筆・硬筆錬成会

日 時 平成25年9月23日（月・祝）午前10時～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

講 師 大池青岑氏、寺田小華氏、浪打靄舟氏、新田双桃氏、山本泉歩氏

参加者 19名（硬筆8名、毛筆16名、のべ24名）

#### ● 春季毛筆・硬筆錬成会

日 時 平成26年3月21日（金・祝）午後1時～3時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

講 師 大池青岑氏、浪打靄舟氏、新田双桃氏

参加者 12名（硬筆6名、毛筆7名、のべ13名）

### ⑤ 文房四宝講習会

文房四宝講習会は、書道実技に必要な用具にかかわる講習会を開催。講習内容は、筆・墨・硯・紙などの書道用具ばかりでなく、書写書道全般にわたる実用的理論的な専門知識を得ることができるよう、多岐にわたる。指導はその道の専門家による。

日 時 3月21日（金・祝）午前10時30分～12時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

講 師 伝統工芸士、豊橋筆伝統工芸士会 副会長 中村全宏氏

題 目 「筆のつくりと名入れについて」

参加者 33名

### ⑥ 書道師範研修会・交流会

#### ● 師範会

平成26年3月21日（金・祝）、晴嵐館錬心講堂において晴嵐館認定書道師範を対象に会合を行った。ここでは、平成25年度合格の新師範13名への認定証授与式をはじめ

め、師範選抜書展などの年間スケジュールの確認、技術的側面における師範相互の交流をはかった。また、文房四宝講習会を実施し、技術的技能向上をはかった。出席者は師範30名（新師範10名を含む）、一般参加者3名。

#### ⑦ 美術作品鑑賞会

書画等作品鑑賞による鑑識眼および技能を養うため、愛知県美術館で開催の「日展 東海展」の鑑賞を促進した。鑑賞希望者を広く一般に募集し、観覧券を頒布した。募集方法は館報による。

その他の作品鑑賞・・・「現代書道20人展」（松坂屋美術館）「上村松園展」（愛知県美術館）

#### ⑧ 作品研究会

書道の全国公募展の作品制作を目指す者に、制作のアドバイスをを行い、資質向上を図った。参加料は無料。

- 中日書道展作品研究会 4月14・28日 午前11時～12時
- 読売書法展作品研究会 5月26日、6月2・23日 午前11時～12時
- 日展作品研究会 9月1・8・15日 午前11時～12時
- 謙慎書道展作品研究会 1月5・12・26日、2月2日 午前11時～12時

#### ⑨ 書道教育相談

晴嵐館が主催する競書、検定試験、展覧会のほか、教室運営、技術学術等に関する相談を受け付けた。平成25年度は書道教育に関する6件の相談が寄せられ、電話等により対応した。

### (2) 書道の資格認定

書道の資格認定として、「競書」と「検定試験」を行った。

競書とは、毎月、定められた同一の課題を中心に作品制作の技能を競うものである。学生は毎月2点の各学年別の課題、一般（毛筆月7点、硬筆月3点）は、段級レベル別の課題により作品を出品する。毎月の審査により優秀と認められた作品は級位昇格し、機関誌に写真版掲載し、一部は錬心講堂に展示する。課題手本の揮毫および作品の審査は、本館委嘱の書道専門家による。なお、競書の成績を発表する機関誌には、成績表のほかに、書道の名品名跡の紹介、毎月の作品課題、競書の成績、優秀作品の掲載、書道・書道教育に関する各種情報の提供をしている。

検定試験は、年2回（春季・秋季）実施し、受験作品のレベルにより、段級位を認定し認定証を発行する。審査にあたっては、書道の専門家（一定の資格を有し、作品の優劣の判断ができると認められた者）による。一般は10級からはじまり、最高位として「師範」（漢字・かな・硬筆）の資格を付与し、晴嵐館錬心講堂において師範証授与式（2月）を行う。学生部は10級～1級、さらには準初段から八段までの認定をおこない、特に優秀と認められる者には、「会友」「特待生」の資格を付与するものである。

#### ① 競書

- 一般対象 硬筆 毎月1回月末作品締め切り
- 学生対象 硬筆 毎月1回月末作品締め切り
- 一般対象 毛筆 毎月1回月末作品締め切り
- 学生対象 毛筆 毎月1回月末作品締め切り

学生部の学年別段級位分布は次のとおり

- 硬筆（2014年3月現在）

	幼年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
10級	14	14	4	3	4	1	1	0	0	0	41

9級	9	10	4	6	5	2	0	0	0	0	36
8級	9	23	9	6	4	3	0	0	0	0	54
7級	5	21	13	15	5	2	2	1	0	0	64
6級	2	13	14	11	5	3	2	0	2	0	52
5級	2	4	13	4	6	6	3	0	0	1	39
4級	3	9	15	13	10	6	2	2	3	0	63
3級	1	1	21	13	10	7	2	1	0	1	57
2級	1	1	11	16	15	7	4	0	1	0	56
1級	0	2	7	20	25	16	6	2	1	0	79
準初段	0	0	1	22	22	9	6	4	1	1	66
初段	0	0	3	9	17	20	15	9	4	3	80
準二段	0	0	1	2	11	18	8	5	1	0	46
二段	0	0	4	11	10	12	11	8	4	1	61
準三段	0	0	0	0	7	9	11	4	1	3	35
三段	0	0	0	0	4	6	11	5	4	2	32
準四段	0	0	0	0	1	11	18	4	5	0	39
四段	0	0	0	0	2	4	9	7	6	1	29
準五段	0	0	0	0	0	0	6	5	3	2	16
五段	0	0	0	0	0	1	6	4	3	4	18
準六段	0	0	0	0	0	0	2	5	3	1	11
六段	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5	9
準七段	0	0	0	0	0	0	2	2	6	1	11
七段	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
準八段	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4
八段	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	5
会友	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
特待生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	46	98	120	151	163	143	127	74	55	33	1010

● 毛筆 (2014年3月現在)

	幼年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
10級	16	20	6	6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	52
9級	8	21	14	7	2	0	1	0	0	0	0	0	0	53
8級	13	47	28	15	8	3	1	1	0	0	0	0	0	116
7級	2	33	25	40	9	6	1	0	0	0	0	0	0	116
6級	4	23	25	22	13	10	1	0	2	0	0	0	0	100
5級	0	22	41	36	31	6	0	3	1	0	0	0	0	140
4級	1	8	29	30	36	18	7	0	0	0	0	0	0	129
3級	2	5	33	31	22	12	9	0	2	0	0	0	0	116
2級	0	2	27	27	33	22	5	0	0	0	0	0	0	116
1級	2	2	20	32	58	38	4	4	3	0	0	0	0	163
準初段	0	1	8	32	49	34	22	6	2	0	0	0	0	154

初段	0	1	9	19	36	25	26	3	3	2	0	0	0	124
準二段	0	0	0	16	24	34	23	6	1	1	0	0	0	105
二段	0	0	4	3	19	32	27	12	4	0	0	0	0	101
準三段	0	0	2	8	21	33	23	17	6	2	0	0	0	112
三段	0	0	0	0	12	23	21	16	7	4	1	0	0	84
準四段	0	0	0	0	3	19	30	19	17	3	1	0	0	92
四段	0	0	0	0	1	6	11	15	9	3	2	0	0	47
準五段	0	0	0	0	0	1	14	10	19	1	3	0	0	48
五段	0	0	0	0	0	1	7	14	10	4	1	1	0	38
準六段	0	0	0	0	0	0	7	11	11	8	3	1	0	41
六段	0	0	0	0	0	0	5	9	9	5	7	0	0	35
準七段	0	0	0	0	0	0	2	4	4	4	2	1	0	17
七段	0	0	0	0	0	0	0	1	4	8	1	2	1	17
準八段	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5	3	4	1	17
八段	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	2	2	2	18
会友	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6	6	8	0	26
特待生	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	7	8	8	29
合計	48	185	271	324	380	323	248	156	129	64	39	27	12	2206

## ② 検定試験・師範試験

### ● 一般毛筆・硬筆昇段級検定試験、師範試験

実施時期 春秋2回（漢字－4月、10月 かな－5月、11月 硬筆－6月、12月）

対象 一般

受験者数 春季漢字259名、春季かな140名、秋季漢字292名、秋季かな131名、春季一般硬筆81名、秋季硬筆一般84名

### ● 学生毛筆・硬筆昇段級検定試験

実施時期 毛筆－春秋2回（5月、10月）、硬筆－春秋2回（6月、11月）

対象 学生

受験者数 春季毛筆1947名、春季硬筆847名、秋季毛筆2058名、秋季硬筆905名

### ● 師範試験

(イ) 一般毛筆漢字師範試験（10月）受験者数35名

(ロ) 一般毛筆かな師範試験（11月）受験者数10名

(ハ) 一般硬筆師範試験（6月、12月）6月の受験者数12名、12月の受験者数11名

## ③ 審査編集

上記に関連して、作品審査並びに機関誌の編集作業を行った。

- 5月3日（金） 一般毛筆春季漢字部検定試験審査
- 5月31日（金） 一般毛筆春季かな部検定試験審査
- 6月4日（火） 学生毛筆春季検定試験審査
- 7月5日（金） 一般硬筆春季検定試験・師範試験審査
- 7月10日（水） 学生硬筆春季検定試験審査
- 11月1日（金） 一般毛筆秋季漢字部検定試験・師範試験審査

- 11月5日(火) 学生毛筆秋季検定試験審査
- 11月29日(金) 一般毛筆秋季かな部検定試験・師範試験審査
- 12月3日(火) 学生硬筆秋季検定試験審査
- 12月27日(金) 一般硬筆秋季検定試験・師範試験審査

④ 段級位認定証の発行

【学生毛筆認定証】

	10級～1級	準初段～八段	会友	特待生	合計
春季	928	980	22	17	1947
秋季	939	1071	26	22	2058
合計	1867	2051	48	39	4005

【学生硬筆認定証】

	10級～1級	準初段～八段	会友	特待生	合計
春季	440	406	1	0	847
秋季	429	473	2	1	905
合計	869	879	3	1	1752

【一般毛筆認定証 (半紙漢字)】

	10級～1級	準初段～八段・準師範	師範	合計
春季	54	120		174
秋季	61	126	4	191
合計	115	246	4	365

【一般毛筆認定証 (半紙かな)】

	10級～1級	準初段～八段・準師範	師範	合計
春季	25	61		86
秋季	18	52	3	73
合計	43	113	3	159

【一般毛筆認定証 (芸術漢字)】

	6級～1級	準初段～七段	佳士、能士、妙士、特士、範士、成家	合計
春季	24	44	17	85
秋季	21	41	8	70
合計	45	85	25	155

【一般毛筆認定証 (芸術かな)】

	6級～1級	準初段～七段	佳士、能士、妙士、特士、範士、成家	合計
春季	9	38	7	54
秋季	6	33	9	48
合計	15	71	16	102

【一般硬筆認定証】

	10級～1級	準初段～五段・準師範	師範	合計

春季	33	35	4	72
秋季	32	41	2	75
合計	65	76	6	147

師範位以外の認定証は各団体の教室において指導者より授与した。

⑤ 書芸中道・硬筆中道師範証授与式

日 時 平成26年3月21日（金・祝）午前10時

場 所 晴嵐館 錬心講堂

内 容 平成25年度毛筆漢字師範合格者4名、毛筆かな師範合格者3名、硬筆師範合格者6名に師範証を授与

⑥ 競書優秀作品展示

毎月の競書作品および検定試験受験作品の中から選ばれた最優秀作品（一般から学生まで、毛筆および硬筆の作品）を随時掛け替え展示し、書道を志す者の作品制作の指針とした。

## 2. 書道公募展事業（コンクール）

子どもから書道を専門とする書家まで、年齢や技術等に応じた展覧会を開催し、一般に公募し作品審査を経た上で公開することで、学校における書写書道教育の発展の一助とするとともに、書道に携わる者を育成し、もって書道文化の向上と普及発展に寄与することを目的として実施している。

対象者として、書道実技向上を目指す者から作品を募集し、書道に関心のある者に対して展示公開している。

本年度は、次の（1）～（5）の展覧会を実施した。

（1）第38回 晴嵐館師範選抜書展

この展覧会は、晴嵐館認定師範位取得者による斬新かつ創意工夫ある作品を一般に公開し、書道の啓蒙、書道文化の発展に寄与することを目的として開催している。書道の専門家として一定レベルに到達した「師範」による展覧会で、一般市民への書道文化の振興と発展をめざす。

晴嵐館認定の書道「師範」位を持つ指導者の中から出品者を選抜し、年1回名古屋市民ギャラリー栄に展示。書道を愛好する一般市民に対して、小さな書道作品（半紙の大きさ以内の小作品）を公開。漢字、かな、漢字仮名交じり書、硬筆など書道のさまざまな分野の作品。一般の観覧者には作品のアイデアと制作意欲を持つことができるよう、鑑賞方法、作品の見方を会場内に掲示し、出品者による作品の解説と文字の読み方（釈文）も示した。作品の表装も、家屋のさまざまな場所のインテリアとして飾ることができるような意匠で実用的にデザインされたものを使用。

今年度は、現在登録の師範279名の中から指導的立場でありかつ活動のめざましい師範150名を選抜し、作品を募集した。うち47名が作品を応募。委員作品5点と合わせて52点を展示するとともに、大池晴嵐作品4点、中国拓本4点を特別展示した。参加料は一人3000円。展覧会の印刷物作品の規格は、半懐紙(24×36cm)以内～カルタ(6×9cm)以上の本紙寸法、作品の部門は漢字・かな・調和体・篆刻・ペンなど自由とした。展覧会の案内は、出品者にはポスターとポストカードを配布、一般観覧者には機関誌ならびにホームページサイトに掲載。作品の展示は7月1日、作品の表装を請け負う専門の業者を中心に軸作品、額作品などを展示。前年度新たに師範に合格者を明示した。毎日、展示責任者と会場受付を各1名配備。出品作品の目録（800部印刷）を入り口で観覧者に配布。会場内には作品鑑賞の方法、作品に対する出品者による説明あるいはコメントなども置き、観覧者の便をはかった。次年度の会場申請を9月4日に行った。

会 期 平成25年7月2日(火)～7日(日)

会 場 名古屋市民ギャラリー栄 第8・9展示室(名古屋 栄 中区役所ビル 8階)

出品者 指導者52名の選抜作品展示

特別展示 大池晴嵐作品4点、中国拓本4点

入場者数 683名

## (2) 第30回中道書法展

この展覧会は、書家ならびに書法研究に志す作家に広く開放し、書道作家の育成と書道文化の向上と普及発展に寄与することを目的とする。古典書法を重んじ各自の自由な発想で創造表現した作品を募集するものである。あわせて、優れた作品・作家を顕彰し、書道技能並びに指導者の指導技能向上をはかる。

書道の作家をめざす全国の満15歳以上の方々から作品を年1回募集。作品の大きさは縦137センチの大きさ(半切)。題材は自由。優れた作品を応募した者には賞を贈り表彰する。作品の募集は、晴嵐館ホームページサイト、『書芸中道』誌、館報などにより、広く一般に求めた。

作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家(本展覧会に優秀な作品を応募し、作品の優劣の判断ができると認められた者)があたる。審査員の選定にあたっては、前回展の出品実績を見て、書道の専門家として審査員資格のある参事・幹事・常任委員から16名を選任した(出席審査員は11名)。審査方法は、○×式の投票による。高得点の作品から一定の入賞率をかけた賞数に割り当てた。審査の基準は、次の五つの観点によりの確に判断した。①線質・用筆、②用墨、③構成・余白、④誤字・脱字、⑤落款(押印も含む)

入賞入選した優秀な作品は、専門の委託業者が軸装に表装し、名古屋市博物館展示室に展示。出品目録を作成(600部印刷)し、特に優秀な入賞作品は、出品者名、優秀作品を掲載し一般に配布。また、「書芸中道」に掲載。ホームページでも公表。

後援を愛知県教育委員会および名古屋市教育委員会に仰ぎ、展覧会終了後に事業の詳細等を報告した。

会 期 平成25年12月17日(火)～23日(月・祝)

会 場 名古屋市博物館 3階ギャラリー

対 象 一般から公募 (15歳以上)

応募点数 公募作品61点と委嘱作品84点

展示点数 応募作品145点、招待・賛助作品3点、遺作1点、特別展示7点、中国拓本3点の合計156点

入場者数 3066名

後 援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

審査会 平成25年11月10日(日)午後1時～3時(11名の審査員により審査)

表彰式 平成25年12月23日(月・祝)午後3時15分～45分、名古屋市博物館 地下講堂において71名を表彰

成績並びに優秀作品の公表 晴嵐館ホームページサイト、『書芸中道』1月号

## (3) 第43回全国教育書道展

この展覧会は、全国の幼年～高校生から書写書道作品を年1回募集し、作品審査を経た上で一般に公開することにより、学校における書写書道教育の発展の一助とするとともに、書道に携わる者を育成し、もって書道文化の向上と普及発展に寄与することを目

的とする。

作品の大きさは半紙で、課題は自由。優れた作品を応募した者には賞を贈り表彰する。作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家（師範や他会の審査員）による。審査においては、小学生・中学生・高校生の3部門に分け、出品規定に照らして、①各学年にふさわしい適切な字句・題材 ②誤字脱字 ③各学年にふさわしい線質・用筆 ④用墨・構成・余白 ⑤名前の書き方などを考慮し判断する。入賞した全作品を台紙に貼り、名古屋市博物館展示室に展示。入賞者名および優秀作品の写真版は、入賞者名簿に掲載し一般に配布。本館発行の機関誌「中道」に掲載。ホームページでも公表。

6月下旬より、近隣の教育委員会（愛知県、岐阜県、三重県、一宮市、春日井市、蒲郡市、岐阜市、江南市、津市、豊明市、豊田市、名古屋市、四日市市）と中日新聞社に後援名義使用並びに賞状交付依頼。内閣総理大臣、文部科学大臣、愛知県、岐阜県、三重県の三県の知事・県議会議長、名古屋市長、江南市長に賞状交付依頼を申請し、展覧会終了後、事業の詳細等を報告した。

また、今年度より中京大学との共催とし、教育書写書道としてのアカデミックな展覧会をめざし開催することとなった。衆議院議長、参議院議長、中京大学学長にも賞状交付を追加依頼した。

作品募集は幼年、小学生、中学生、高校生を対象とし、要項を8月中旬に関係各所に送付。機関誌ならびにホームページサイトに掲載し、広く一般に作品を募集した。募集作品の審査にあたっては、過去3年間の出品実績のある団体指導者の中から14名を選考し審査員を依頼した。作品は全国から5013点が応募され、11月3日に作品審査会を行った（出席審査員は8名）。応募総数の15%（755点）の入賞作品を決定し、出品者、指導者、所属小中高校に成績を通知。ホームページサイトにも上位入賞者（128名）の氏名と作品13点を掲載した。展覧会は12月17日（火曜日）～23日（月曜日）。名古屋市博物館ギャラリーに入賞作品を展示。展示にあたっては、作品を台紙に貼り、壁面展示した。前年度上位三賞の受賞者を招待とし、作品を額装展示。

会場入り口では上位入賞者の作品写真と入賞者全員の氏名を記載した名簿（1550部印刷）を作成し配布。

展覧会終了後は、出品作品等を返却し、賞状交付並びに後援名義使用した官公署に終了報告書を送付。次年度の会場申請を12月3日におこなった。

会 期 平成25年12月17日（火）～23日（月・祝）

会 場 名古屋市博物館 3階ギャラリー

対 象 幼年、小学生中高校から公募

応募点数 5013点

展示点数 入賞作品755点と招待作品3点の合計758点

審査会 平成25年11月3日（日）、8名の審査員により審査

表彰式 平成25年12月23日（月・祝）、名古屋市博物館地下講堂において128名を表彰

賞品賞状授与 12月21日（土）～23日（月）の3日間は入賞者に賞品と書状を会場内で授与。

#### （4）第31回中道書き初め展

この展覧会は、書き初めを通じて、学童ならびに指導者の技能向上をはかり、書道文化の普及と書写書道教育の発展に寄与する。

全国の幼年～高校生から、指定の課題の書写書道作品を年1回募集。作品の大きさは、縦64センチの書き初め用紙で、課題は学年別の同一課題。優れた作品を応募した者には



賞を贈り表彰する。作品の審査は、実績と経験を兼ね備えた書道の専門家（師範や他会の審査員）による。審査においては、学年別に分け、出品規定に照らして、①各学年にふさわしい線質・用筆 ②基本点画（とめ・はね・はらい・おれ・まがり・そり） ③用墨・構成・余白 ④誤字・脱字 ⑤学年・名前の書き方などを考慮し判断する。入賞した全作品を台紙に貼り、布袋ふれあい会館会議室に展示。一般の観覧者には、作品の見方についてのチラシを配布。入賞者名および優秀作品の写真版は、機関誌「中道」に掲載。ホームページでも公表。

来場者には、日本文化の一つである「えと」についてを紹介するチラシを作成配布した。

会 期 平成26年2月8日（土）

会 場 江南市民文化会館 1階展示室

対 象 幼年、小学生、中学生、高校生から公募

応募点数 1773点

展示点数 入賞作品351点

審査会 平成26年1月12日（日）、6名の審査員により審査

表彰式 平成26年2月8日（土）、同会館2階会議室において57名を表彰

#### （5）晴嵐館書道教室作品展

毛筆教室、篆刻教室等の受講者の制作作品を年1回（3月）江南市民文化会館展示室に展示。教室における学習成果の発表の場であり、書道を愛好する一般市民に作品を公開することで、書道教育・書道芸術の向上をはかった。出品料は一般3000円、学生は無料。

会 期 平成26年3月29日（土）・30日（日）

会 場 江南市民文化会館 1階展示室

対 象 教室受講者ほか（一般、学生）

内 容 一般書道（毛筆、ペン）、篆刻、こども学生書道の作品展示

出品者 一般書道51名、篆刻6名、こども学生書道68名

### 3. その他

#### （1）図書資料等の貸出

晴嵐館が収蔵する図書資料を一般に貸し出し、書道を研究する一般市民又は研究者の技術的・理論的向上を図る。

中国や日本の書道の名品名跡、字典辞書、実技技法書、理論書、その他美術文学にわたる書道の周辺の書道に関する様々な図書文献約4000冊、映像資料等を、一般の図書館と同様に貸出す（館内での閲覧を含む）。対象者は書道に関心のある者、書道研究者。今年度の貸出実績は68件。

#### （2）筆供養

本事業は、毎年1回7月に筆供養を厳修するものである。晴嵐館の庭園の一角にある大池晴嵐筆による「筆塚」碑の前で、使い古しの筆を供養し参列することを通じて、書道用具に対する感謝の念と道具を大切に扱う心を養い、書道技術上達を祈念する。毎年100本近くの筆が一般から広く献納される。対象は筆の供養を望む者。

今年度は、7月15日（月・祝）午前8時より筆供養を厳修した。供養の導師は真言密教系の僧侶による。祈祷と呪文を唱えながら使い古しの筆を燃やした。本年は88本の筆が広く一般から献納された。

### (3) 賞状交付等（書道催事支援事業）

本事業は、地域における書道教育または書道振興を目的とする書道催事に対し、公益財団法人晴嵐館の後援名義使用・「晴嵐館賞」賞状交付・催事案内公告等をおこない、地域団体の書道展覧会、個展、書道イベント等の催事など、書道活動の振興を図り、書に携わる者を支援するものである。

賞状の交付は、書道実技向上を目的に書道愛好家を対象として地域の書道団体等が地元地域で開催する書道展および書道催事。催事の規模にもよるが、一つの展覧会に対して交付は20枚まで。

後援名義は、書道の普及発展ならびに書道実技向上を目的に、書道指導者および書道愛好家を対象として、地域の書道団体等が地元地域で開催する者に対してその使用を認めている。

このほか、機関紙・ホームページサイトによる支援広告をする。25年度は2件の申請があり、事業規約に照らして支援した。支援した事業は次のとおり。

- 第60回多度大社奉納書き初め大会に対し後援並びに晴嵐館賞20名表彰（2月）
- 第31回秋津書人社書道展に対し後援（3月）
- 東海書道藝術院創立60周年記念 歴代会長副会長遺墨展に対し後援（4月）

### (4) 書道記念事業

法人設立あるいは展覧会等の周年記念時に、書道に関する様々な出来事等をテーマとして企画する行事（例：王羲之生誕1700年記念など）の開催を通じて、書道文化の継承者の育成を図り、もって書道文化の振興に寄与する。今年度は中道書法展が30回となり、収蔵拓本を展示して書道文化向上に努めた。

### (5) 施設の貸与

書道に関する研究会等の集会を開催しようとする個人又は団体に対して、晴嵐館の多目的研修施設を貸し出し、書道に携わる者の活動を支援する。書道研修施設として建設した「錬心講堂」は、一般の書道愛好者または書道団体が書写書道教育に関する集会、研究会、作業などに利用できる。鉄筋コンクリート造り 高殿式平屋（建築面積138.234平米、建物119.756平米 うち、研修室75平米、図書収蔵庫12平米、事務室16平米）。利用期間は、毎週木曜日を除き随時利用可。定員は約40名まで。使用料は1時間当たり1000円。

利用者を館報、ホームページサイトで募ったところ、1件の利用者があった。

### (6) 研究成果の公表（書道および書道教育に関する研究）

書論、書道史、書道文化を含む書道関連の領域を研究し、その研究成果を定期的に公表することを通じて、書道の指導者および研究者の資質向上を図ることを目的とする。

所蔵作品や収集資料を展示公開するための基礎的研究とは異なり、書論、書道史、書道文化を含む書道関連領域を研究し、その研究成果を機関紙を通じて公表する。平成25年度は、「禅語研究」、「漢文研究」を2名の専門家に委託し、その研究成果を機関誌「書芸中道」に毎月連載した。

- 「禅語研究」愛知学院大教授 田島毓堂氏
- 「漢文研究」皇学館大名誉教授 野村茂夫氏

### (7) 広報事業（情報公開・事業の情報提供）

晴嵐館が主催する事業のほか、書道に関する有益な情報を、機関紙、館報、ホームページ等により公開提供する。

#### ① 機関誌『中道』『書芸中道』『硬筆中道』

- 「硬筆中道」481号（482号からは「中道」「書芸中道」に合本）  
発行 B5版20ページ 4月10日 1126部（前年比－834部）  
内容 硬筆書道研究、事業案内、審査結果掲載  
対象 学生（幼年～中学生）、一般（高校生以上）
- 「中道」579号  
発行 B5版20ページ 4月25日 1940部（前年比－670部）  
内容 教育書道研究、事業案内、審査結果掲載  
「中道」580号～590号（「硬筆中道」学生部と合本）  
発行 B5版28～32ページ 毎月25日 2200部／月（前年比－410部）  
内容 教育書道（毛筆・硬筆）研究、事業案内、審査結果掲載  
対象 学生（幼年～高校生 硬筆は中学生まで）
- 「書芸中道」518号  
発行 B5版20ページ 4月25日 556部（前年比－214部）  
内容 芸術書道研究、事業案内、審査結果掲載  
「書芸中道」519号～529号（「硬筆中道」一般部と合本）  
発行 B5版28～32ページ 毎月25日 685部／月（前年比－85部）  
内容 芸術書道（毛筆硬筆）研究、事業案内、審査結果掲載  
対象 一般（高校生以上）

#### ② 館報

晴嵐館の活動は、前記の機関紙においても広く公告しているが、事業や財務の公告は一元的に行われていない。かつて「晴嵐館だより」として平成3年から平成11年まで刊行していたが、その後はホームページに依存して、紙媒体による公告紙の発行に至っていなかった。公益財団法人移行認定を受け、「館報」を年4回発行することとし、ネットによる情報発信とともに紙媒体での情報提供をしている。

掲載内容は、事業計画・予算、事業報告・決算、各種事業案内、会員募集、寄附募集など。

- 第4号 6月25日発行（150部）
- 第5号 8月20日発行（150部）
- 第6号 1月1日発行（150部）
- 第7号 3月15日発行（150部）

#### ③ ホームページサイト

晴嵐館ホームページサイトは、平成13年8月に開設して以来10年を超える。この蓄積を通じて晴嵐館の活動を公開発信してきた。機関紙では掲載しきれない最新の情報や過去のデータ等を掲載し、今までに蓄積された情報をいつでも見ることができるよう公開している。平成25年度も事業案内、作品募集、成績発表、公告（事業計画、収支予算、事業報告、収支決算、財産目録、役員名）などの最新情報をきめ細かに更新した。本サイトのトップページの閲覧数は、3355件（前年度比＋178件）であった。ホームページアドレスは、<http://www.geocities.jp/museiran>。

#### ④ 学びネットあいち

愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」を利用して、講座・講習会、イベント、資格、教材などの情報を発信した。

#### ⑤ NOPODAS

非営利法人データベースシステム「NOPODAS」を利用して、基本情報、組織情報、事業内容、財務・会計、広報・お知らせ、寄附募集などの情報を発信した。

⑥ 愛知の博物館お出かけガイド

愛知県博物館協会が運営する「博物館お出かけガイド」を利用して、展示案内の情報を発信した。

⑦ 広報こうなん

江南市の広報誌「広報こうなん」にはたらきかけ、全国教育書道展の開催要項を掲載した。

⑧ 尾北ホームニュース

中日新聞傘下の地域情報誌「尾北ホームニュース」にはたらきかけ、全国養育書道展、書き初め展の地域入賞者名を掲載した。

⑨ 中日新聞

中日新聞の後援を得て、全国教育書道展の成績を「中日新聞」朝刊の各地域版に掲載した。

⑩ 書道美術新聞

書道業界紙「書道美術新聞」（美術新聞社）にはたらきかけ、師範選抜書展の出品者名を掲載した。

### Ⅲ 物品の販売事業（収益事業1）

書道芸術、書道文化の向上の一環として、書道に関する書籍、教材、書道用具等を販売した。

#### 1. 書籍（図書）

書道研究・学習に有用な書籍図書を紹介販売した。

#### 2. 用具、書道教具教材等

書道学習に必要な用具などの販売をおこなった。

#### 3. 硬筆規定用紙

毎月の硬筆課題、検定試験の練習用紙・清書用紙として、硬筆規定用紙を印刷販売している。用紙の種類は次のとおり。

- A用紙 B 6版 タテ罫線5本 一般硬筆2級以上A課題、子供広場用
- Aかな用紙 B 6版 タテ罫線なし 一般硬筆かな2級以上A課題用
- B用紙 B 6版 5文字×3行 15マス 2面 一般硬筆3級以下B課題、学生用
- C用紙 B 5版 タテ罫線8行 一般書翰文、書歴用

## IV 管理部門

### 1. 理事会・評議員会・監査会

#### (1) 監査会

日 時 平成25年4月28日（日）午後1時30分～4時  
場 所 晴嵐館 事務所  
出 席 監事2名 代表理事1名  
内 容 1. 監査の概要説明  
2. 理事の業務執行状況の説明  
3. 平成24年度事業報告書の説明  
4. 平成24年度財務諸表および収支報告書の説明  
5. 監事の意見聴取  
6. 監査報告書署名捺印

#### (2) 第3回理事会

日 時 平成25年5月6日（月・休）午後1時30分～3時30分  
場 所 晴嵐館 錬心講堂  
出 席 決議に必要な出席理事の数3名、出席5名、欠席無し、監事出席1名  
議 事 第1号議案 平成24年度の事業報告書の承認について  
第2号議案 平成24年度の計算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書）  
及び付属明細書、財産目録の承認について  
第3号議案 監査報告  
第4号議案 会員の承認について  
第5号議案 諸規程の制定について  
第6号議案 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決議に  
ついて  
第7号議案 その他

#### (3) 臨時理事会

日 時 平成25年5月26日（日）午後2時～2時30分  
場 所 晴嵐館 錬心講堂  
出 席 決議に必要な出席理事の数3名、出席3名、欠席2名、監事出席1名  
議 事 第1号議案 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決議に  
ついて（再）  
第2号議案 その他

#### (4) 第2回定時評議員会

日 時 平成25年6月9日（日）午後3時～5時（5月26日定足数不足で延期）  
場 所 晴嵐館 錬心講堂  
出 席 決議に必要な出席評議員の数6名、出席7名、欠席3名、理事出席1名  
議 事 第1号議案 平成24年度の事業報告書の承認について  
第2号議案 平成24年度の計算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書）  
及び付属明細書、財産目録の承認について  
第3号議案 その他

#### (5) 第4回理事会

日 時 平成26年3月2日（日）午前10時～11時  
場 所 晴嵐館 錬心講堂  
出 席 決議に必要な出席理事の数3名、出席4名、欠席1名、監事出席1名

議 事	第1号議案	平成26年度の事業計画について
	第2号議案	平成26年度の収支予算について
	第3号議案	資金調達および設備投資の見込みについて
	第4号議案	諸規程の制定について
	第5号議案	会員の承認について
	第6号議案	その他

## 2. 新しい寄附金税制と寄附金募集

本財団は「特定公益増進法人」ではなかったが、今回の公益法人制度改革における公益財団法人への移行により、新しく平成23年6月22日に創設された「公益法人等への寄附金に係る税額控除制度等」が適用されることとなった。平成24年6月1日に所得税控除申請書類を提出し、6月7日付けで5年間（平成29年6月6日まで）の証明書を受けた。

所得税控除の適用を受けられることで、寄附金の募集を積極的におこなった。寄附件数は次のとおり。

- 4月1日～12月31日 26件
- 1月1日～3月31日 147件

## 3. 会員募集

新しい会員規程に照らし、会員募集を積極的におこなった。今年度、会員の入会申し込みがあったのは、次のとおり。

- 維持会員 5名
- 賛助会員 2名

## 4. 業務執行体制、内部管理体制

### (1) 代表理事の業務執行

大池代表理事は、週に3日程度の間隔で業務の確認と執行をおこなった。業務内容は、事業事務、経理事務、管理事務、全般にわたり、5月6日、3月2日開催の理事会において、自己の職務の執行状況を理事会に報告した。

### (2) 業務執行理事の業務執行

松川業務執行理事は、月に3回程度の間隔で業務の確認と執行をおこなった。5月6日、3月2日開催の理事会において、自己の職務の執行状況を理事会に報告した。

### (3) 職員

常勤職員は3名で、次のとおり役割分担をしているが、お互いにまたがるものについてはその限りではない。

- 大池圭子（管理担当・・・施設・設備・顧客・経理管理、指導・教育）
- 大池久美子（庶務担当・・・事務・用務・文書・役員管理、厚生、事業）
- 大池茂樹（学芸担当・・・作品・資料・図書文献管理、調査研究、企画）

### (4) 非常勤事務職員（パート4名）

非常勤職員の事務業務は次のとおり。接客・顧客管理・業者対応・金銭等收受・経理・データ入力・受付・準備・記録・整理・電話対応・文書管理・連絡・清掃・その他事務業務に発生するさまざまな業務にあたった。

### (5) 非常勤専門委員（審査・編集委員6名）

競書、検定試験の作品審査ならびに機関誌編集委員は次のとおり。各機関誌につき、毎月1回従事した。

- 大池青岑（中道・書芸中道・校正・課題選定）
- 大池龍子（中道・書芸中道）
- 寺田小華（書芸中道）
- 浪打靄舟（中道）
- 新田双桃（中道・書芸中道・課題選定）
- 山本泉歩（中道・課題選定）

(6) 教室講師は次のとおり

- 大池青岑（毛筆教室 日展会友・中京大学教授）（月3回）
- 岡野楠亭（篆刻教室 日展委嘱）（月1回）

## 5. 福利厚生

職員の福利厚生および災害補償に対応するため、労働保険に継続加入した。

## 6. 団体加入

### (1) 小牧法人会

5月16日（木）、小牧法人会第2回の総会にあたり、今後の運営の参考とするため、職員を1名派遣した。

### (2) 愛知県博物館協会

### (3) 江南市社会福祉協議会

## 7. 内部規程等の整備

第4回理事会において、次の規程を制定した。

- 「理事会運営規程」（制定）

## 8. 経理および税理士の関与

年度当初、前年度の決算書類等は代表理事が作成した。5月27日、平成24年度の事業にかかる事業税（均等割）、消費税、名義変更等につき菱田純次税理士事務所（名古屋市昭和区）を通じて小牧税務署、西尾張事務所、江南市役所に申告し納税した。

源泉税の年末調整は、e-TAXを利用して書類作成、データ送信した。

また、25年度中の経理伝票の作成と経理データの入力には主に非常勤職員が日々担当し、固定資産の運用と管理、次年度の予算書類作成、税理士への中間報告は代表理事が担当した。

資産を健全に管理するため、取引銀行を1行増やした。金融機関の破綻に対応するため、財産目録に記載のとおり基本財産預金ならびに特定資産預金を分散した。

取引金融機関は次のとおり

- 大垣共立銀行 江南支店
- 岐阜信用金庫 東江南支店
- 三菱UFJ信託銀行 名駅支店
- ゆうちょ銀行 江南支店
- 三菱東京UFJ銀行 江南支店
- 三井住友銀行 名古屋駅前支店
- JA愛知北 布袋支店

また、今年度新たに次の金融機関に口座を開設した

- 愛知銀行 江南支店（平成25年12月2日）



## 9. 特定資産等の管理

岐阜信用金庫東江南支店（江南市今市場町）と契約（平成24年4月20日）の貸金庫を、土地・建物に関する書類、銀行定期預金通帳等の安全な保管場所として継続利用した。

### 10. 役員登記

石川浩一理事逝去（3月23日）のため、役員変更登記の準備をした。

### 11. 行政庁への報告

- (1) 平成25年度事業計画書については、平成25年4月30日に行政庁の手続き処理が完了した。
- (2) 平成24年度事業報告（事業報告書、決算書類等）を、平成25年5月6日の第3回理事会に諮り、6月9日の第2回定時評議員会で承認ののち、平成25年6月28日付で、公益法人インフォメーションのシステムから電子提出した。8月15日、行政庁の手続き処理が完了したが、その後、行政庁より一部修正の通知があり、10月21日、修正書類を電子提出した。
- (3) 平成26年度事業計画（事業計画書、予算書等）は、10月ころから準備策定し、平成26年3月2日の第4回理事会に諮り、3月10日、電子提出した。

### 12. 建物（晴嵐館、錬心講堂、その他）等の管理

#### (1) 防犯・防火

昭和60年（1985年）の不審者侵入による錬心講堂火災後、セコム株式会社とセキュリティ契約を継続し、休日および夜間の外部からの侵入報知、火災報知による防犯防火を図っている。

#### (2) 施設の補修、改修

##### ● 錬心講堂の屋根改修

事業等に使用する錬心講堂は築30年を経過する。銅版葺きの屋根が長年の風雨にさらされ、はがれている箇所があった。雨漏り等の懸念もあったので、5月に一か月かけて屋根防水改修工事、外壁塗装工事等をおこなった。

##### ● 錬心講堂のトイレ改修

書道研修施設「錬心講堂」のトイレが男子便器1基、和式1基であったが、利用者の便のため洋式2基に改修した。同時に流しのステンレスの傷みもあり、また幼児でも利用できる低めの流しを敷設し、水回りを交換した。

##### ● トイレ浄化槽修繕

トイレ汲み取りの際、浄化槽破損が判明し修繕した。

#### (3) 施設の美化

- 社団法人江南市シルバー人材センターと清掃等業務の契約を継続し、施設および庭園の美化を図った。

#### (4) 庭園保全

庭園除草、樹木消毒、樹木選定、植樹、池魚管理その他を随時おこない、庭園の美化を図った。

- 除草・・・草ひき（毎月曜日）、除草剤散布（4月～10月 月1回）
- 除虫・・・日常は噴霧器による 大規模な庭園消毒（5月）は川田造園に委託
- 清掃・・・池（5月）、地蔵・筆塚、庭園灯、正門、落葉。池の
- 樹木剪定・・・随時。庭園専門業者（庭園師）には年2期に分け、秋はマツを中

心に、春先はカエデ、ドングリなど樹木全般の大枝打ちをした

- 植樹植草・・・シバ、スギゴケの整備。大王松2株を入手し植樹計画中
- 土の入れ替え・・・堆肥利用。土に混じるジャリを篩にかけ、通路に戻す
- 池管理・・・停止中の循環ポンプを調整し、水の濾過、エアーによる酸素供給を復活。水底の藻や水面の枯葉除去し、鯉の餌やり育成につとめた。稚魚15匹を追加。